

ア
ナリスト
レポート

しがきん経済文化センター 志賀 文昭



雪の菅山寺山門／長浜市



回復に向けた動きが続いているものの、 全体的に弱含みで推移

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数でみると、金属製品や食料品などは上昇したものの、輸送機械や窯業・土石製品、化学、その他などは大幅に低下したため、原指数、季節調整済指数ともに2か月ぶりのマイナスとなった。この結果、季調済指数の3か月移動平均値も2か月ぶりに前月を下回り、一進一退の動きとなっている。

需要面では、百貨店・スーパー販売額については、身の回り品や家庭用品などは伸び悩んだが、食料品や衣料品、家電機器などで前年を上回り、全店ベースでは7か月連続、既存店ベースでは4か月連続のそれぞれプラスとなり、全体に堅調に推移している。また、軽乗用車は2か月ぶりの大幅マイナスとなったものの、乗用車の新車登録台数は3か月連続で前年を上回っている。さらに、新設住宅着工戸数は持家が2か月ぶりの大幅プラスとなり、貸家と分譲住宅も前月に続き前年を大きく上回ったため、全体では2か月連続の大幅プラスとなった。一方、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積は鉱工業用が2か月ぶりのプラスとなったものの、商業用とサービス業用が低水準かつ大幅のマイナスとなったため、全体では前月に続き大幅のマイナス。また、公共工事の請負件数は9か月連続で前年を大きく下回り、金額は3か月ぶりの大幅マイナスとなった。このような中、雇用情勢をみると、両求人倍率は前月に比べ上

昇し、とくに有効求人倍率は10か月連続の1倍超となっている。これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は一部の業種で好調なものもみられるが、全体的に弱含みの動きとなり、一進一退で推移している。需要面では個人消費と住宅投資は前向きの動きがみられ、堅調に推移しているが、民間設備投資と公共投資で一服感がみられる。したがって県内景気の現状は、回復に向けた動きが続いているものの、一部で伸び悩みの動きがみられ、全体的に弱含みで推移している。

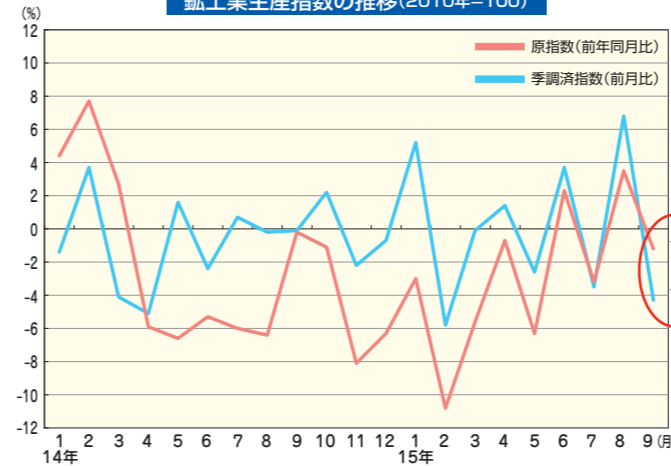
今後の動向 県内製造業の生産活動については、国内景気の緩やかな回復や米国景気の堅調な動きを受けて回復基調に向かうものと思われるが、中国経済減速の影響から一部の業種では生産調整が長引き、減産の可能性が懸念される。また、需要面では、個人消費については円安等による物価上昇や景気の不透明感といった懸念材料はあるが、家計収入の増加や原油安による消費マインドの良性などから、全体に底堅いと考えられる。一方、民間設備投資や新設住宅着工などの投資関連では一部で前向きの動きがみられるものの、慎重さが残り、全体に弱含みで推移するものと思われる。

したがって今後の県内景気は、回復に向けた状態が続くものの、中国経済減速の影響も懸念され、全体に弱含みで推移するものと考えられる。

「鉱工業生産指数」は両指数とも 2か月ぶりのマイナスで一進一退

2015年9月の県内製造業の生産状況をみると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は100.9、前年同月比-1.2%で2か月ぶりのマイナス、「季節調整済指数」も97.8、前月比-4.3%で、これも再びマイナスとなった。この結果、季調済指数の3か月移動平均値(8月)は98.6、前月比-0.4%と2か月ぶりのマイナスとなり、一進一退の動きとなっている。業種別(中分類)に季調済指数の水準をみると、「電気機械」や「化学」「パルプ・紙・紙加工品」「食料品」などは高水準が続いているが、「鉄鋼」や「輸送機械」「窯業・土石製品」などの水準は低い。前月と比べると、「金属製品」や「食料品」などはプラス、一方、「輸送機械」や「窯業・土石製品」「化学」「その他」などは二ケタのマイナスとなった。

鉱工業生産指数の推移(2010年=100)

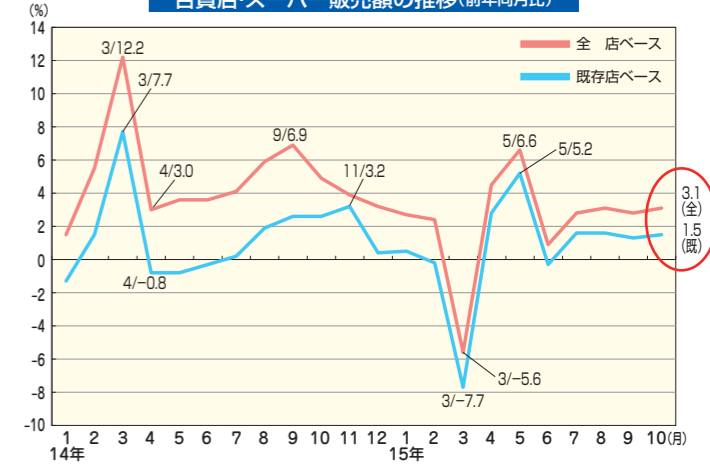


「百貨店・スーパー販売額」は 4か月連続で両ベースともプラス

2015年10月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は103.8で、前年同月比+0.7%、前月比+0.1%となり、前年比では30か月連続のプラス、前月比でも再びプラスとなった。「可処分所得(大津市・勤労者世帯)」は11か月ぶりのマイナスとなり(前年同月比-4.5%)、「家計消費支出(同)」は前月に続き前年を下回った(同-0.4%)。

このような所得・消費環境のなか、10月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は96店舗)」は21,937百万円、前年比+3.1%で、7か月連続のプラスとなり、堅調に推移している。品目別にみると、身の回り品(同-1.1%)と家庭用品(同-4.3%)が再びマイナスとなったものの、ウエイトの高い食料品は29か月連続で増加していることに加え(同+3.9%)、衣料品が再びプラス(同+1.6%)、家電機器も4か月連続の大幅プラスとなっている(同+13.6%)。「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高も全体では4か月連続で前年を上回っている(同+1.5%)。

百貨店・スーパー販売額の推移(前年同月比)



10月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「小型乗用車(5ナンバー車)」は3か月連続のプラスとなっているのに加え(1,392台、前年同月比+2.1%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」が3か月ぶりのプラスとなったため(1,431台、同+2.6%)、2車種合計では3か月連続のプラスとなっている(2,823台、同+2.4%)。一方、「軽乗用車」は今年4月からの増税の影響が長引き、2か月ぶりの大幅マイナスとなった(1,656台、同-22.9%)。

「新設住宅着工戸数」は 前月に続き大幅のプラス

2015年10月の「新設住宅着工戸数」は767戸、前年同月比+17.3%で、前月に続き大幅のプラスとなった。利用関係別でみると、「持家」は419戸、同+12.0%(大津市91戸、守山市56戸など)で2か月ぶりの大幅プラスとなり、「貸家」は221戸、同+17.6%(大津市63戸など)で前月に続きプラスとなった。さらに「分譲住宅」も124戸、同+42.5%(大津市50戸など)で前月に続き大幅のプラスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「分譲マンション」は3か月連続で申請がなかったものの(0戸、前年差0戸)、「一戸建て」は3か月連続で前年を大きく上回った(124戸、同+37戸)。なお、「給与住宅」は3戸(東近江市2戸など)。

新設住宅着工戸数の推移(前年同月比)

